

令和5年度 府中市立府中第一小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況
			年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・字形が崩れる児童がいる。 ・助詞を正しく使えない児童がいる。 ・読み書きができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マス目を用いたり見本をなぞったりして、書き順を意識させながら正しい字形を覚られるようにする。 ・プリントを使用し習熟したり、ノートの書き取りで助詞を正しく使えるように継続的に指導したりする。 ・習熟に合わせた短文読みや書き取りの練習を取り入れる。 	A
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・文章題で正しく立式できない児童がいる。 ・基本的なものの数え方を理解していない児童が多い。計算ができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題場面を理解できるよう、キーワードに線を引かせたり具体物を用いたり図に描かせたりする。 ・計算カードを用いて、くり返し練習させる。 	A
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物の観察では、形を捉えて描き表したり、文章を書いたりすることが難しい児童がいる。 ・学校探検で場所を把握できない児童や、インタビュー活動に主体的に取り組めない児童がいる。 ・アサガオの水やりを忘れるなど生き物を大切に育てられない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語や、図工の学習で学んだ書き表し方を活かして、じっくり観察し多様に表現できるように指導する。 ・下見をさせたり、写真を掲示したりして、学校への興味を引き出し、自ら進んで調べ学習ができるように指導する。 ・生き物の仕組みを指導する。また、道徳の学習を通して、生命の大切さを継続的に指導する。 	B
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤ハーモニカのタンギングが身に付いていない児童がいる。 ・拍に合わせてリズムをとることが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤ハーモニカの唄口をくわえず、息の流れや舌の使い方を意識して練習させる。 ・手をたたいたり、楽器を用いたりしてリズム感覚が得られるようにする。 	B
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・描くものや作るものを決められない児童がいる。 ・道具を正しく使えない児童がいる。 ・作品作りに主体的に取り組めない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の体験したことや好きなものについての話から、作品作りへのイメージをもたせる。 ・道具の使い方を繰り返し、活動時間を十分に確保する。 ・基本的な描き方や作り方を指導し、作品例を鑑賞させることで、創作への意欲を引き出す。 	A
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動経験や運動能力に個人差がある。 ・夢中になりすぎてルールを忘れてしまう児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手な児童も取り組めるような活動の工夫をする。 ・上手な児童を見本にしながらか取り組むよう指導する。 ・図で示したり、児童同士でもルールが守れるよう声を掛け合わせる。 	A

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第一小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況
			年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・句読点の打ち方、かぎ(「」)の使い方の理解が不十分な児童が多い。 ・助詞を正しく使って文章を書けない児童がいる。 ・自分の考えを表現するときに、既習の漢字を十分に使えていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作文の書き方の表を作り、教室内に掲示する。 ・書く活動の前に、正しい助詞の使い方を例示する。 ・日頃から、教員が既習の漢字を使い、こまめに声掛けを行うことで、児童の意識を高める。 	B
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・文章題を読んで、問題場面を想像することが難しい児童がいる。 ・1桁同士の繰り上がりのあるたし算や繰り下がりのあるひき算の定着が不十分な児童がいる。 ・ものさしの目盛りの読み方につまずきが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章題の内容を絵や図に表す経験を増やし、問題場面をイメージする力を高める。 ・より多くの問題を解き、正しい答えを導く力を身に着ける。 ・日常的に使い、ものさしを正しく扱えるようにする。 	B
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決のための自分の考えをもつことはできるが、表現することは難しい児童が多い。 ・これまでの生活経験の個人差が大きい。 ・植物の観察で気付いたことを文章で表すことが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童同士で意見交換を行い、表現の仕方を知る機会を増やす。 ・児童が経験してきた生活体験を学級全体で共有する。 ・観察の視点や文章での表現の仕方を例示する。 	A
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・タンギングを意識出来ていない児童がいる。 ・鍵盤ハーモニカを弾くとき、指遣いが身に付いていない児童がいる。 ・児童が技能を身に付けるための工夫が十分に行えていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に鍵盤ハーモニカを演奏する前に、息遣いの練習をチャンツのようにして行う。 ・指を一緒に動かしたり、一音ずつゆっくり弾いたりして、指遣いの抵抗感を少なくする。 ・教師だけではなく、児童同士でも歌う姿勢や演奏の仕方を教え合う環境づくりをしていく。 	B
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えを表しづらい児童がいる。 ・作品をより自分のイメージに近づけるように表現の工夫をすることが難しい。 ・鑑賞する際に、友達の作品の良さに気付いたり書けたりする児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の体験したことや好きなものについて話を共にし、作品作りのイメージをもたせる。 ・児童同士でも意見交換ができるよう、場の工夫を行う。 ・鑑賞の視点がもてない児童のために、具体的な書き方の例を提示したり、友達の意見を共有したりする。 	A
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の経験による個人差が大きい。 ・体が硬い、自分の体を腕で支えられないといった自分の体を思い通りに動かせない児童がいる。 ・体を動かすことに対する意欲が低い児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個の能力に応じた場を設定し、スモールステップで取り組ませる。 ・柔軟運動や、体をこまめに動かす運動を取り入れ体を動かすことを習慣化できるようにする。 ・ルールや活動を工夫し、運動の楽しさを感じられるようにする。 	B

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第一小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況
			年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字テストへの意欲はあるが、日常生活での漢字を活用することに課題がある。 ・文章を整理して書くことに課題がある。 ・主語・述語のない文章を書くことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字小テストの定期的な実施と共に、ノートや作文指導などにおいて既習の漢字を意識的に使うよう指導をしていく。 ・はじめ、中、終わりの組み立てを意識しながら文章を作るようワークシートを活用して文章を書く練習を繰り返し指導する。 ・文章を書く際に、主語・述語のプリント練習に取り組ませる。 	B
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・九九の定着がまだ不十分な児童がいる。 ・問題文を正しく読み、テープ図に表すことが苦手な児童が多い。 ・立体に関する名称を忘れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かけ算や割り算の単元の初めに九九を繰り返し復習させるとともに家庭学習でも基礎基本の定着に取り組ませる。 ・児童の書いたテープ図を見せ合い、何を表現しているのかを読み取らせる。 ・2学期以降の図形単元で繰り返し用語を活用し、基本事項として定着させる。 	B
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの事象や物の様子等から、検証可能な問題を見いだすことが難しい。 ・観察カードを書くときに視点から外れたことを書いてしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実生活での経験を引き出したり、生活経験の差を埋めるために共通体験を取り入れたりする。それらを基に、児童の気付きや疑問を引き出し、問題の見いだしができるように指導する。 ・観察の視点を明確にし、それが分かるように文で表すことを指導する。 	A
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・東西南北の理解が不十分で、地図を正しく読み取ることが困難な児童がみられる。 ・公共施設と商業施設の区別がつかない児童が多い。 ・府中市のうつり変わりの学習において、時代感覚を養う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳を活用し地図に興味をもたせるとともに身近な地図を活用し地域と比べるなど実生活と結び付けていく。 ・スーパーマーケット見学や消防署見学を通して違いをとらえたり考えさせたりする。 ・父母が生まれたころ、祖父母が生まれたころ、100年くらい前など、児童にも理解できる平易な言葉に置き換えイメージさせていく。 	A
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱では、自然で無理のない発声方法が定着しない。 ・リコーダーの学習では、姿勢、持ち方、タンギング、息の調整がまだ身に付かない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不自然な発声方法で歌っている場合は、その都度発声方法を確認して指導する。 ・座席配置を工夫したり、教師が一人一人の課題を把握して個別指導をしたりする。 	B
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・絵の具の濃度の調整・混色等の基本的な技能が十分に身につけていない児童がいる。 ・資料を基に描く活動は十分に行っているが、想像から描く体験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵の具の濃淡を使い分けられるよう、題材の中で指導する(淡彩は1学期に経験済み) ・発達段階に合わせて、年間計画の中で適宜、想像から描く活動を取り入れ、幅広い表現方法を体験させるよう意識して指導する。 	A
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・走力や持久力が弱い児童がみられる ・ゲーム領域では、勝敗を受け入れることができず、もめることが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で鬼ごっこ要素を取り入れた運動を取り入れたり、時間走を取り入れたりする。 ・相手に対して敬意と感謝の気持ちを表せるようにしていく。 	B

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第一小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第4学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況
			年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を表現する力に個人差がある。 ・習った漢字を使わない、使い方が間違っている児童が見られる。 ・漢字学習に意欲をもてない児童、字形を整えて書くことが難しい児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを工夫して、自分の考えがまとめやすいようにする。意味調べの機会を設け、語彙力を増やしていく。 ・習った漢字を使う機会を作る。（漢字の学習の発展・作文） ・フラッシュカードや、意欲の高まるワークシートを活用する。正しい鉛筆の持ち方や姿勢を常に意識させる。 	B
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・読み間違い、読み取り不足など文章題を読み取る力に課題がある。 ・公式や定義などの説明をする機会が少なく、既習内容であっても基本的なルールが入っていない。 ・基礎基本である四則計算に課題がある。繰り下がりのたし算ひき算ができていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必ず文章の問題を読み、書くようにして慣れさせる。思い込みで読まないように、指差しや下線をひきながら読ませ、さらに書くことで読み間違いを防ぐ。慣れさせる。 ・定義、きまり、条件などを丁寧に押さえた授業を心がける。授業の始まりに必ず前時の振り返り、定義やきまりの確認を口頭でもする。 ・e ライブラリを活用し、基礎計算問題を5分間授業開始の際や、宿題や隙間時間などに取り組みさせる。 	B
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験において予想を立てるとき、自分の考えをもてない児童が多い。 ・科学的な思考・表現を苦手とする児童が多く、文章に表す力が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を見いだす際の、自然事象の提示を工夫するとともに、隣同士やグループでの話し合い活動の機会を増やす。 ・実験や観察ごとに、自分の言葉でまとめる機会を増やす。まとめる視点を提示し、問題と正対した予想や考察を書けるように指導する。 	A
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を正しく読み取れない児童がみられる。 ・資料から読み取ったことを活用して、自分の思考に生かすことが難しい児童がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を正しく読み取れるように、算数とも関連付けながら、時間をかけてじっくり指導する。 ・友達との交流を通して複数の力で考えることができるよう、場面を意図的に設定する。 	B
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽の技能の個人差が大きい。 ・表現領域では、どのように演奏するかの思いや意図をもつことができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・座席の配置を工夫したり、動画で運指を確認できるようにしたりすることで、不得手な児童を支援する。 ・どのように演奏したらよいか児童に問いかけ、楽譜に書かれていること（拍子、速度、リズム、旋律、強弱など）をもとに考えられるようにする学習を積み重ねる。 	B
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・用具の適切な使い方や、絵の具の濃度の調節など、基礎的な技能が身につけていない児童が一定数見られる。 ・制作工程が理解できず題材のめあてから外れてしまう児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・題材の合間に小単元を設定するなどし、用具に慣れ、習得した技能を次に生かせるような題材配列を設定する。 ・用具の扱いや表現技法等、基本的な技能面の指導を行った上で、児童の自由が確保されるよう意識して指導を行う。 	A
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・柔軟性や支持感覚、回転感覚などが乏しい児童が多い。 ・勝敗を受け入れられない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間帯で柔軟性や支持感覚、回転感覚を体験できるような活動を取り入れ、習慣化させる。 ・相手がいることでゲームが成立することを伝え、相手を称えられるように声掛けする。 	B

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第一小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第5学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況
			年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 語彙が少なく、習った漢字の定着が低い。 筆者の考えを読み取り、それに対する自分の意見を書いたり、感想をまとめたりすることに苦手意識がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習した漢字繰り返し練習させるとともに、既習の漢字を使って自分で短文を作ることを宿題で取り組ませる。 説明文の構造を理解させ、要旨に対して自分は賛成なのか反対なのかを考えさせるようにする。加えて、はじめ、中、終わりで文章を書く方法を繰り返し指導して定着させる。 	B
算数	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能の個人差が大きく、定着できていない児童が多い。 既習事項を活用したり関連させたりして思考する力が乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟に合わせて、課題の内容などを工夫して授業を展開する。授業内や家庭学習などで計算などの反復学習を行う。 授業内で既習事項を想起できる工夫を取り入れ、思考できるようにする。 	B
理科	<ul style="list-style-type: none"> 理科の学習用語、実験器具の正しい使い方が定着していない児童がいる。 見通しをもって問題解決に取り組めておらず、実験方法の立案や考察の際に、自分の考えを表現することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験器具の使い方については、出てくる場面で繰り返し指導する。用語を使いながら、説明するような学習活動を工夫する。 常に問題に立ち返ることで、児童の問題意識を持続させながら学習に取り組めるようにする。考える視点を整理し、具体的な例示をすることで、児童個々の表現につなげられるよう指導する。 	A
社会	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県や六大陸三海洋など大事な言葉が知識として定着していない。 読み取ったことを基に考える力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内で復習プリントを行うなど反復練習を行う。 読み取りをもとに、事実と考えたこと(原因や理由)をセットにしてメモしたり発言したりする言語活動を行う。 	B
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を生かしての学習が難しい。 器楽曲では、曲想に合ったタンギングや息の使い方が難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 常時活動を通して、次の学習に関係のある既習事項を復習することでスムーズに学習に入れるようにする。 楽譜に書かれていることや、感じ取ったことを基にどのように演奏したいかを考え、演奏方法を工夫する経験を積み重ねたり、教師が図を活用して説明したりする。 	B
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 模写等の具象的な表現には進んで取り組むことができるが、題材の自由度が上がると発想が広がらない傾向がみられる。 基礎的な技能(用具の使いかた)が身につけていない児童が一定数いる。 制作工程を理解せず取り組む児童がいる 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの参考作品や作例を提示して、抽象的な表現にも取り組み、表現の幅を広げる。 小単位の中で技能を習得させる。本制作に入る前に用具の使いかたを練習する時間を設ける。 全体の工程の見通しがもてるように写真資料等を掲示し、可視化できるようにする。 	B
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 生活経験に個人差があり、学習内容の理解や技能の習得に時間がかかる。 学習したことと生活をつなげて考え、実践していく意識が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活体験の少ない児童が分かりやすいように教材の選択や提示の仕方を工夫し、生活経験の不足を補う。技能の習得については、前に集めたり個別指導したり並行して行う。 学習を生活に生かす姿勢を育てるために、学習と生活とのつながりに気付けるように導入を工夫する。学習したことを家庭で実践する場面を取り入れ、実践したことを共有する機会を設ける。 	B
体育	<ul style="list-style-type: none"> 単元によって、苦手意識をもつ児童の学習意欲が低下し、技能の個人差が大きくなる。 他者の課題を把握し、助言し合うことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 苦手意識を減らせるように、運動の必要性や特性等をオリエンテーションで示し、意欲をもたせる。また、クラスの目標とは別に、個人の目標を設定する時間を確保する。 他者の課題を把握するために、運動のポイント見つけの時間を確保する。また、ICT 機器を活用することで自己や他者の動きを見る機会を増やす。 	A
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 新たな単元が始まると前のフレーズがつながるのにも関わらず瞬時に話すことができない。 定着している学力、使えるようになるまでに必要な練習量に差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元に関係なく、今までの学習をたびたび復習する時間を設ける。決まったフレーズ+αのペア活動を多く設ける。 クロームブックを活用した個別最適な学びの時間をとる。 	B

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第一小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第6学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況
			年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを論理的に書くことが苦手な児童がいる。 漢字の定着が弱く、普段から習った漢字を正しく使えない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明文の教材を使いながら、はじめ・中・終わりで作文を書けるように構成を考えて文章にできるように指導する。 直しを正しくすることや再テストすることをして、定着が図れるように指導する。 	A
算数	<ul style="list-style-type: none"> 四則計算が身に付いていない児童がいる。基礎基本の定着度に2極化が見られる。 文章題からの立式が苦手な児童が多い。複数の式を必要とする問題で順序立てて考えることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> レディネステストでの見とりを丁寧に行い、習熟度別の学習の中で基礎基本の計算を計画的に行う。 文章題を解く際には、4マス関係表を年間通して使い、立式につなげられるようにする。 	B
理科	<ul style="list-style-type: none"> 問題意識が低いと、考察を書く際に何を書いたらよいか分からず、表現するのが難しい。 学習内容と日常生活や身の回りの事象とのつながりを考えられない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が問題意識をもって解決に取り組めるように事象提示を工夫する。また、考察の視点や文型を示すことで、考察を表現できるようにする。 日常生活と関連のある場面を取り上げ、理科の有用性を実感することができるようにする。 	A
社会	<ul style="list-style-type: none"> 政治や日本国憲法の学習内容と実生活の中でそれがどのように生かされているのかイメージできない児童がいる。 歴史の時代背景と主要人物の関係をつかめずに知識として定着できない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 政治や憲法を身近なものとしてとらえられるように府中市の事例や具体的な事例を挙げて児童が考えやすいようにする。 相関関係を時系列から理解を促すことで楽しく知識を定着できるようにする。 	B
音楽	<ul style="list-style-type: none"> マスク着用での歌唱活動が定着し、口の開け方や声の響かせ方、呼吸法等が身に付かない。 器楽曲では、曲想に合ったタンギングや息の使い方が難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 口の開け方や体の使い方を、教師が実演して指導する。 楽譜に書かれていることや、感じ取ったことを基にどのように演奏したいかを考え、演奏方法を工夫する経験を積み重ねたり、教師が図を活用して説明したりする。 	A
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 作品が完成に近づいた時、もう一段階迫及することができない児童がいる。 活動全体の見通しがもてず、完成できない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 途中で鑑賞の時間を設けることで、友達の作品から良さを感じ、自分の作品に生かせるようにする。 制作スケジュールの見通しがもてるよう、単元全体の予定を毎時間提示し、作業の具体的な進捗を示して取り組ませる。 	B
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 生活経験の個人差により、学習内容の理解や技能の習得に時間がかかる児童がいる。 学習したことを生活に生かそうとする意欲が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活経験とつなげた教材の選択や提示の仕方を工夫する。技能の習得については、段階を踏んで指導をしたり、児童同士教え合いの時間を確保したりする。 学習と生活とのつながりに気付けるように導入を工夫する。学習したことを家庭で実践する機会を設け、カードなどを活用して計画や振り返りをさせる。 	A
体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動の技能差が大きい。 課題の解決に向けて課題やコツを理解できる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題をスモールステップで示すことで、体育が苦手な児童も達成感を味わえるようにする。 児童が対話する時間を設定したり、ICTを活用したりして、技能のポイントを理解できるようにする。 	A
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 十分に聞く・話すができる単語やフレーズであっても読むことができないことがある。 今までに習った学習の身に付き方の差が大きい。新しいフレーズが使えるようになるまでに必要な練習時間の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> やり取りが九九のように自動化するまでを目標とさせる。読みの学習時間を設ける。 クロームブックを活用した個別最適な学びの時間をとる。 	A

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、年度末に評価する。